

おわりに

2021年秋に全国の自主夜間中学を対象にしてアンケート調査を実施した。27団体から回答が得られた。基礎的事実をいくつか紹介したい。

回答があった27団体の学習者の人数は581名であった。学習者の平均人数は23.2名、一番少ない団体で1名、一番多い団体では65名の学習者がいる。幅広い年齢層が学んでいるが、10代112名(19.3%)と70代101名(17.4%)の多さが注目される。国籍については、回答団体数24団体で552名の総数のうち、日本国籍が362名(65.6%)、外国籍が190名(34.4%)であった。全体としてみれば、年齢も国籍も多様な学習者が確認されるが、団体別に学習者の年齢別・国籍別構成をみると、自主夜間中学は、「日本人集中型」、「外国人集中型」、「10代集中型」、「高齢者集中型」、その他に分類される。

学習者が自主夜間中学に参加した理由(複数回答)では、多い順に、「読み書きが出来るようになるため」21、「中学校の学力を身につけたいため」18、「将来、高等学校に入学するため」16、「日本語が話せるようになるため」15、「将来、就職資格を取得するため」7、「日本の文化を理解したいため」7、「その他」8であった。その他には、「学校生活を送り直す」、「仲間を求めて」、「ゆったりとした気持ちでおしゃべりしたい」等があった。

スタッフの人数は502名であった(25団体)。スタッフの平均人数は20.0名、最も少ない団体は1名、最も多い団体は79名であった。スタッフの年齢別構成では、60代(33.7%)が最も多く、次に70代(28.1%)で、60代以上のスタッフは66.1%を占める。

開講回数(回答25団体)は、週1回(11団体)が最も多く、週2回(6団体)が次に続く。全ての平日に開講している団体もある。その他、月1回(1団体)、月2回(2団体)、月6回(1団体)であった。1回の学習時間は1～2時間(16団体)と2～3時間(9団体)が多い。開講は週1回だが、開講時間は10時間という団体もある。

「スローガン、運営について最も重要に考えていること」に対する回答で一番多く共有されていたのは「共(とも)に学ぶ、学びあう、共に生きる」等の「共(とも)に」というスローガンである。「誰が生徒か先生か」、「生徒が主役」にも同様な考え方が込められていると言えるが、学習者に寄り添いながら学習を応援するとともに、学習を通して自らも学んでいく姿勢が全体的に重視されている。

2016年の夏だったか。関西で開催された教育研究集会で公立夜間中学の存在を知り、こんな学校があるのかという驚きをもって、その歴史や全国的な動向を調べてきた。公立夜間中学も自主夜間中学もいろいろと見学させていただいた。自主夜間中学の実践は、「組織らしくない組織による学校らしくない学校」づくりと捉えることが出来ると思う。学習者にとって魅力ある学校とスタッフにとって魅力ある組織をつくり育てていくにはどうすればよいか、本研修会を通して考えていきたい。

「とちぎに夜間中学をつくり育てる会」

代表 田 巻 松 雄